

2023 年度 事業報告

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

(1) 2022 年度公募型研究助成事業の完了

2022 年度に実施した食物アレルギーに関する予防、診断、治療、対応食品等の研究開発に関する研究助成事業（共同研究 6 件・3,249 万円、個人研究 15 件・2,889 万円、期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月）を完了した。研究成果報告書を纏め、当財団 Web 上での掲載及び冊子で公開するとともに、研究成果報告会を開催した。

《研究成果報告会》

開催日：2023 年 10 月 10 日

場 所：AP 品川アネックス（東京都港区）

開催形式：口頭報告会（共同研究報告）

ポスター報告会（個人研究報告）

参加者数：約 80 名

内 容：全課題の報告会を 2019 年 10 月以来となる完全対面形式で開催した。研究成果の普及はもちろん、問題解決にあたる様々な立場の有志が一堂に会し、問題解決に向けた交流を行い、議論を深める場となった。また、過去の助成先の研究助成先の成果として「ω-5 グリアジン欠損食用小麦（しまね夢こむぎ[®]）」で作ったお菓子を配布し、食物アレルギー対策研究が着実に社会に実装されていることを参加者で共有した。

(2) 2023 年度公募型研究助成事業の実施

食物アレルギーに関する科学技術の振興・促進を図り、当該分野の医療や食環境の改善に寄与することを目的とした研究助成事業において、2023 年度の助成先として採択された研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

《助成先等》

助成件数：20 件（共同研究 5 件、個人研究 15 件）

助成総額：5,900 万円（共同研究 3,000 万円、個人研究 2,900 万円）

助 成 先：別表 1 に記載

助成期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月

特記事項：2024 年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団 Web サイトへの掲載、冊子の作成、成果報告会の開催）を行う。

(3) 2024 年度公募型研究助成事業の推進

2024 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

ア 主要日程

- ・ 2024 年度研究助成募集要項の策定（2023 年 6 月）
研究助成委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・ 公募（2023 年 7 月 14 日～9 月 30 日）
- ・ 第 1 回研究助成審査委員会（2023 年 10 月 18 日）
- ・ 第 2 回研究助成審査委員会（2023 年 12 月 8 日）
- ・ 助成先の決定（理事会決議：2024 年 2 月 1 日）
- ・ 通知（2024 年 2 月）
- ・ 覚書締結（2024 年 3 月）

イ 助成先等

- ・ 受理総数：34 件（共同研究 9 件、個人研究 25 件）
- ・ 助成件数：22 件（共同研究 6 件、個人研究 16 件）
- ・ 助成総額：6,278 万円（共同研究 3,137 万円、個人研究 3,141 万円）
- ・ 助 成 先：別表 2 に記載
- ・ 助成期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

(4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

財団の事業に有益な研究や行政動向に関する情報収集とともに、財団のパブリックリレーション活動の一環として、以下の学会や展示会に参加し、講演、展示または広告掲載等を行った。

医 学 関 係：日本小児臨床アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会、日本アレルギー学会

食 品 関 係：日本栄養・食糧学会、ifiaJAPAN、日本食品化学学会、日本食品科学工学会、日本農芸化学会

栄養士関係：日本栄養改善学会

また、日本栄養改善学会においては共催セミナーを実施した。

《第 70 回日本栄養改善学会学術総会での共催セミナー》

実施日：2023 年 9 月 2 日

形 式：現地対面形式

共 催：日本栄養改善学会

演 題：『食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2022』の解説

演 者：佐藤 さくら先生（国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 部長）

聴講者：約 220 名

指導的な立場である聴講者に最新の情報を届けることに成功した。また、聴講者に食物アレルギー対応のスイーツを配布し、食物アレルギー対応加工品の存在と意義をお伝えした。

2. 食物アレルギーと向き合う人々の QOL 維持・向上を目指した啓発・支援活動

(1) 「第 9 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の健全で豊かな食生活に寄与するために、食物アレルギーに配慮した創作型料理（アレルゲン除去食、代替食）を公募し、専門家で構成する審査委員会で優良作品を選考するコンテスト事業を継続実施した。当事業は、家庭等で工夫された料理技術の伝承、アレルギーに関する意識喚起、教育機会の創出等を目的としている。

新たな試みとして、レシピ申請手続きの完全オンライン化を行った。また、第 8 回と同様、「一般の部」と「学生の部」という部門区分を廃止し、「食事部門」と「おやつ・デザート部門」の 2 部門に分けて募集。なお、「卵、乳、小麦いずれも使用しない」という応募条件に変更はない。

ア 主要日程と受賞数等

- ・ 2023 年度募集要項の策定（2023 年 6 月）
- ・ 公募（2023 年 7 月 3 日～10 月 10 日）
- ・ 第 1 回審査委員会（2023 年 10 月 30 日）
- ・ 第 2 回審査委員会（2024 年 2 月 12 日）
- ・ 受賞作品の決定（理事会決議：2024 年 3 月 7 日）

・ 応募総数：468 件

・ 事務局による一次審査通過数：100 件（両部門合計）

・ 審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：20 件（両部門合計）

・ 審査委員会（試食審査）による最終審査結果：

最優秀賞 各部門それぞれ 1 件

優秀賞 各部門それぞれ 1 件

審査委員特別賞 食事部門 3 件、おやつ・デザート部門 5 件

入賞 食事部門 3 件、おやつ・デザート部門 5 件

・ 後援：厚生労働省、消費者庁、農林水産省

・ 運営協力：女子栄養大学出版部

なお、審査委員特別賞では、それぞれのレシピが持つ特長を表彰状に明記した。

受賞作品名は別表 3 に記載

イ 受賞作品の情報公開及び表彰式の開催

第9回コンテストの表彰式（2024年3月10日）

審査委員特別賞以上の12組及び来賓を合わせて約70名規模で開催し、受賞の栄誉を称えた。2019年3月以来となる立食形式の受賞記念交流会では、コンテスト受賞作品（過年度含む4品）と市販加工食品で作った食物アレルギー対応料理も提供し、レシピへの想いや食物アレルギー対応の未来について情報交流が行われた。なお、受賞作品のレシピ、調理法（動画）のWeb上での公開、レシピ集の作成などは2024年度に行い、成果物の普及活動に取り組む予定である。

ウ 優れた作品の再発見プランの遂行

過去の一次通過作品から優れた作品を再発見する計画は完遂に至らなかった。2024年度に再計画を行う。

(2) 食物アレルギーセミナーの実施

ア 栄養士、食従事者向けセミナーの開催

栄養士や食従事者を主な対象として、食物アレルギーに関する診断・治療・栄養指導・事故予防等に関するセミナーをハイブリッド形式で行った。特別講演として、福井会場では、藤田医科大学客員教授の宇理須厚雄先生より「食物アレルギー 家庭と園・学校での対応」を、米子会場では藤田医科大学総合アレルギーセンター 小児科教授の近藤康人先生に「ひやりはっと体験から学ぶ食物アレルギー初期対応」をお話いただいた。別府大学栄養科学部の高松伸枝教授には全会場にて「食物アレルギー栄養食事指導のポイント」を解説いただいた。また、講演後の座談会（質疑応答）は、聴講者が日常現場で抱えている課題に関して、先生とともに解決するという趣旨で実施し有意義な会となった。

2会場での参加者数は714名であった。オンラインと現地形式のそれぞれの利点を改めて感じたのはもちろん、今年度から初めて取り入れた「エピペン講習」により、食物アレルギー対応の理解を深めることに成功した。なお、今年度も継続して、(公社)日本栄養士会の「生涯教育認定制度」の運用（受講者の単位取得）を実施した。

《開催日程》

福井会場 : 2023年9月17日（外部講師：宇理須厚雄先生、高松伸枝先生）

米子会場 : 2024年2月4日（外部講師：近藤康人先生、高松伸枝先生）

《開催形式》

ハイブリッド形式

《運営協力》

女子栄養大学出版部

イ 保育者向けセミナーの開催

保育所や認定こども園等の保育士、栄養士を主な対象として、食物アレルギーに係る基礎知識及び対応方法に関するセミナーをハイブリッド形式で実施し、352名に参加いただいた。会場参加者に「食物アレルギー対応食を含む軽食」を提供する立食交流会を実施し、食物アレルギー対応食の周知を行うと同時に参加者同士の交流促進に成功した。

基調講演として、同志社女子大学名誉教授の伊藤 節子 先生より「乳幼児食物アレルギーの基礎知識と給食対応のポイント」を、講演 1 として地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 小児科 主任部長の亀田 誠 先生から「保育所・こども園での食物アレルギー対応」を、講演 2 として大阪済生会中津病院 小児科 免疫・アレルギーセンター副部長の平口 雪子 先生から「大阪府における保育関係者に向けた食物アレルギー教育の取り組み」をお話いただいた。基礎知識からエビペン講習、さらには開催地の実情の紹介まで盛り込んだ講演は極めて好評であった。また、講演後の座談会（質疑応答）は、職場で判断に困っている内容の相談が相次ぎ、問題解決の場となった。

《開催日程》

大阪会場：2023 年 12 月 2 日（外部講師：伊藤節子先生、亀田 誠先生、平口雪子先生）

(3) 団体活動支援助成の実施

全国の市民、民間団体等が行う食物アレルギーに係る問題解決を目指す諸活動（教育、調査研究、啓発物の作成等）を支援する目的で助成事業を行った。公募制により課題を募集し、理事会にて審査基準に基づき、公益性、実現可能性、社会への波及効果等を評価し、助成の可否決定を行った。なお、今年度は助成先のニーズに対応するため、助成期間を延長して公募した。

ア 主要日程と助成先

- ・ 公募 第一期：2023 年 4 月 3 日～4 月 21 日
 第二期：2023 年 7 月 28 日～9 月 4 日
- ・ 助成先の決定 第一期：2023 年 5 月 11 日、第二期：2023 年 9 月 28 日
- ・ 助成期間 第一期：2023 年 7 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
 第二期：2023 年 11 月 1 日～2024 年 6 月 30 日
- ・ 助成件数：9 件（第一期・7 件、第二期・2 件）
- ・ 助成総額：586 万円
- ・ 助 成 先：別表 4 に記載

また、2024 年 1 月 1 日に発生した「令和 6 年能登半島地震」を契機に、迅速な緊急支援を行う仕組みとして「災害等における救援活動支援助成」を新設し、公募した。その結果、2023 年度事業として 1 件採択し、助成を行った（助成先は別表 5 に記載）。

3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギーの環境改善に向けた取組み

(1) 事業成果物の普及活動の推進

ア 啓発物の普及

2015 年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした啓発本「食物アレルギーのひみつ」について、年間 4 回のプレゼントキャンペーンを実施した。また、小冊子については、主催セミナー、各種の講演会等にて配布した。

イ 料理コンテスト事業における入賞作品のレシピ等成果物の普及

(ア) 受賞レシピ及び料理動画

コンテスト受賞作品の社会での活用を目的に、レシピを普及する活動を推進した。第 8 回コンテスト受賞作品の料理動画を作成し、当財団の Web サイト上で無料公開を行った。公開した料理動画は、第 1～8 回コンテストを合計して 162 品となった。また、第 8 回コンテスト受賞作品のレシピ集を作成し、セミナー等で配布した。

(イ) 成果物の普及に関する企画

保育者向けセミナーの立食交流会において、「食物アレルギー対応食 料理コンテスト」の受賞作品を提供し、参加者に好評を得た。また、同コンテストの第 9 回の表彰式の中で行った受賞記念交流会において、当該回の受賞作品と同時に過年度の受賞作品を試食提供し、認知と利活用拡大を行った。

(2) 行政等のソーシャルセクターとの連携（厚生労働省等）

ア 情報発信

厚生労働省の補助事業として（一社）日本アレルギー学会が運営するアレルギー情報ポータルサイト（アレルギーポータル）に当財団の制作物や主催セミナー情報を継続的に掲載いただいている。

イ 制作活動

消費者庁が行った「外食・中食における食物アレルギーに関する情報提供の取組の推進のための啓発動画」の作成に専務理事がアドバイザー（全 6 名）として参画し、協働した。今後は本啓発資材等を用いた周知、広報を行っていく。

(3) 社会と連携した教育活動の支援、専門知識を有す食従事者養成を目的とする活動の支援

当財団の食物アレルギーセミナーが、（公社）日本栄養士会が主催する「食物アレルギー分野管理栄養士・栄養士認定制度」の資格更新単位認定セミナーとなっている。

大学、調理師養成校等の教育機関や有名宿泊業からの委嘱を受け、食物アレルギーに関する基礎知識、栄養指導等の最新情報、エピソードトレーニング等の講義を実施した。

4. 財団の認知度や理解向上のための取り組み

(1) Web サイトを活用した情報発信

財団の広報、情報公開における有用なツールであるため、コンテンツの充足、刷新に努めた。情報更新とともに、これまで積み重ねた情報の整理と改良を行い、視認性の向上を図った。

(2) 学会その他の展示ブースを活用した財団紹介

新聞等の媒体の活用、学会等での展示、各種講演等により財団の認知、知名度の向上を図った。事業の節目で、メッセージ性を判断して、7回のニュースリリースを実施。多数の記事掲載実績を得た。

5. 財団運営

- (1) 公益法人運営の基本原則（遵法、情報開示、ガバナンス）を重視した健全運営を継続すべく、機関決定及び業務執行を行った。

機関運営を別表 6 に記載

- (2) 運営に万全を期すために、継続して外部ブレイン（税理士法人、司法書士、公益法人協会、助成財団センター、IT コーディネーター等）を活用した。

- (3) 事業成果が社会に与えるインパクトや影響に関する評価とフォローアップを継続実施した。

- (4) 寄附文化の醸成を目指した全国的な啓発活動に参加し、寄附金募集の広報を継続した。

以上

別表1 2023年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成（5件）】

	氏名	所属機関	課題名
1	安部 力	岐阜大学大学院医学系研究科 准教授	食物アレルギーに関わる神経-免疫系の機序解明と軽減手法確立への挑戦
2	北浦 次郎	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 先任准教授	可溶性 ST2 に着目した食物アレルギーの病態解明と予防・治療法開発
3	野村 伊知郎	国立成育医療研究センター研究所 好酸球性消化管疾患研究室 室長	好酸球性消化管疾患、慢性炎症の原因特定のための食物負荷試験標準化に関する研究
4	藤枝 重治	福井大学学術研究院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授	モデルマウスを用いた花粉-食物アレルギー症候群におけるアレルギー免疫治療の確立と機序解明
5	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	経胎盤感作の分子機構の解明：ヒト胎盤由来絨毛細胞を用いた食物抗原の透過性の検討

【個人研究助成(15件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	赤川 翔平	関西医科大学医学部小児科学講座 講師	小児鶏卵アレルギー患者における腸内細菌叢解析を用いた耐性獲得予測
2	井原聡三郎	東京大学医学部附属病院 消化器内科 助教	樹状細胞の TGF- β シグナルによる食物アレルギーの制御機構
3	門脇 紗織	岐阜大学医学部附属病院 小児科 医員	食物アレルギー診断およびメカニズム解析を目的とした IgE 依存性即時型アレルギーに関する試験管内診断法の確立
4	川上 竜司	京都大学医生物学研究所 特定助教	食物アレルギーを予防する長期安定型 - 制御性 T 細胞の分化・維持メカニズム
5	高里 良宏	あいち小児保健医療総合センター 医長	新生児・乳児消化管アレルギーと腸内菌叢（細菌＋真菌）の関連

6	田中 孝之	京都大学大学院医学研究科 客員研究員	鶏卵アレルギー小児の長期的観察による食物アレルギー寛容誘導機序の解明
7	内藤 宙大	名古屋学芸大学 助手	リン酸化ペプチドによるカゼインのエピトープ解析
8	長竹 貴広	明治大学 専任准教授	オメガ3脂肪酸代謝物 17,18-エポキシエイコサテトラエン酸による食物アレルギー抑制機構の解明
9	野村 孝泰	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 講師	胃食道逆流に注目した牛乳アレルギーモデルマウスの免疫機序の解明
10	牧田 英士	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科 講師	固形食物による消化管アレルギーの診断と予後予測におけるバイオマーカーの研究
11	松岡 諒	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 共同研究員	新生児・乳児早期に発症する消化管アレルギーの病態解明
12	松田 将也	摂南大学 薬学部 特任助教	デザイナー細胞外小胞を用いた食物アレルギーの予防・治療法の創出
13	山本 健	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD併用による新規経口免疫療法の開発
14	横大路智治	広島大学大学院 医系科学研究所 (薬) 准教授	ω 5-グリアジン欠失 1BS-18 小麦系統の生体内での低アレルギー性の検証
15	吉川倫太郎	島根大学 医学部 助教	間葉系幹細胞による食物アレルギー予防効果の検討

※50 音順、敬称略、所属等は 2023 年 4 月時点

別表 2 2024 年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成（6 件）】

	氏名	所属機関	課題名
1	楠 隆	龍谷大学 農学部食品栄養 学科小児保健栄養学研究室 教授	野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内 細菌を含む網羅的コホート研究
2	近藤 康人	藤田医科大学ばんだね病院 小児科 教授	重症果物およびナッツ類アレルギー診断に おける GRP の有用性
3	佐藤 陽	宮城学院女子大学 生活科 学部 食品栄養学科 教授	食物アレルギーの治療における D-アミノ酸 含有ビオチニル化ペプチドの有用性の検証
4	田中 俊一	京都府立大学 生命理工情 報学部 准教授	小麦アレルギー予防経口酵素剤の高効能化 を実現する、第二世代グルテン分解酵素の 創生
5	早坂 晴子	近畿大学 理工学部 准教授	ポリフェノール代謝物による樹状細胞遊走 調節を介した食物アレルギーの制御
6	山本 貴和子	国立成育医療研究センタ ー・アレルギーセンター 室長	食物蛋白誘発胃腸症(FPIES)患者の尿中脂質 バイオマーカーの探索

【個人研究助成(16 件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	赤川 翔平	関西医科大学 医学部小児科学講座 講師	水溶性食物繊維（イヌリン）を用いた重症 心身障がい児の腸内細菌叢改善によるアレ ルギー予防戦略の開発
2	貝谷 綾子	順天堂大学大学院医学研究 科 アトピー疾患研究セン ター 特任助教	IgE 交差抗原による食物アレルギーの病態 解明と予防法開発
3	佐藤 拓弥	高知大学大学院 総合人間 自然科学研究科（博士課 程）医学専攻 医療学コー ス 臨床腫瘍学（臨床腫瘍 専門医）大学院生	獣肉アレルギーとセツキシマブ過敏症の関 連性に関する前向きな検討及びセツキシマ ブ過敏症のスクリーニング法の考案

4	高瀬 貴文	国立病院機構三重病院 小児科/アレルギー科医師	ペクチンアレルギーにおけるカシューナッツアレルギーとの関連の解明と診断方法の開発
5	武村 直紀	大阪大学大学院薬学研究科 准教授	上皮細胞傷害性を示すナノ粒子が皮膚感作と食物アレルギーに及ぼす影響の解析と予防対策の創出
6	谷田 寿志	名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 助教	胃食道逆流を背景とした牛乳アレルギーモデルマウスの感作初期の自然免疫の解明
7	田村 誠朗	兵庫医科大学 医学部 糖尿病内分泌・免疫内科 助教	アニサキスアレルギー患者のアニサキスアレルギーコンポーネントと病態の解析
8	内藤 宙大	名古屋学芸大学 助手	状態の異なる鶏卵アレルギーのアレルゲン性の解析
9	長田 夕佳	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 助教	アレルゲン性を基盤とした IgE 受容体の脱感作メカニズムの解明と食物アレルギー治療への応用
10	西澤 早紀子	愛知淑徳大学 准教授	食物アレルギーによる骨減少と多価不飽和脂肪酸による制御
11	福富 友馬	独立行政法人国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 臨床研究推進部長	成人に持ち越した小児発症食物アレルギー患者の社会的自立度に関する実態調査：Web を介した population-based study
12	藤岡 数記	京都府立医科大学大学院医学研究科 免疫内科学 病院助教	種々の環境物質への対策を通じた経皮感作食物アレルギー予防の可能性
13	三苦 修也	宮崎大学 医学部医学科 感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の予防効果と作用機序の解明
14	山下 恒聖	昭和大学 医学部小児科学 講座 助教	超重症牛乳アレルギー患者に対する極微量牛乳経口負荷試験が耐性誘導に与える有効性を検証する前向き観察研究
15	山本 健	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミン D 併用による新規経口免疫療法の開発
16	横大路智治	広島大学大学院 医系科学研究科（薬） 准教授	低アレルゲン化食用 1BS-18 小麦系統を利用した安全性の高い小麦アレルギーの減感作療法の開発

※50 音順、敬称略、所属等は 2024 年 4 月時点

別表3 第9回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(8件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム /グループ名	勤務先 または 学校名	都道府 県
最優秀賞	米粉でモチっと！小籠包	谷 和志 さん	大手前大学 健康栄養学部 基礎栄養学ゼ ミ	大阪府
優秀賞	みんなで食べられる！ ベジコロッケバーガー	児島 舞帆 さん	名古屋文理大 学短期大学部	愛知県
審査委員特別賞 (食ベタラ納得レ シピ)	タラのクリケッタ	石川 ともえ さん	郡山女子大学	福島県
審査委員特別賞 (マルゲリータも 喜ぶレシピ)	米粉で愛をこめ！みんなで シェアするもっチーズピザ	與那嶺 愛梨 さん		岡山県
審査委員特別賞 (ビジュアル卵焼 きレシピ)	給食でもかんたん千草焼 き！	社会福祉法人あか ね福祉会／ 中本 里香 さん 井上 愛 さん 藤澤 萌夏 さん	社会福祉法人 あかね福祉会	千葉県
入賞	もちとろシチューパン	大谷 伊吹 さん	東京都立農業 高等学校	東京都
入賞	みんな大好きわくわく カレ ーまん&焼きカレーぱん	野村 貴子 さん		千葉県
入賞	千葉の名物太巻き寿司をみ んなでおいしく食べよう！@ お別れ給食	社会福祉法人あか ね福祉会／ 井上 愛 さん 中本 里香 さん 藤澤 萌夏 さん	社会福祉法人 あかね福祉会	千葉県

【おやつ・デザート部門（12件）】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	勤務先 または 学校名	都道府 県
最優秀賞	みんなで食べよう！カラフルスノーボール	中筋 春菜 さん		大阪府
優秀賞	まるっとバナナのお揚げロール	Y' s Deli さん	Y' s Delicatessen	長野県
審査委員特別賞 (スムーズ レシピ)	ふむふむ 黒豆フムスのムース	アヤム さん		愛知県
審査委員特別賞 (おからが大変身 レシピ)	大豆たっぷり！味わい さっぱり！オレンジムースケーキ	伊藤 萌香 さん	名古屋文理大学 短期大学部	岐阜県
審査委員特別賞 (ふわもち食感レ シピ)	奇跡のふわとろ生ドーナッツ with ずんだクリーム	大西 拓也 さん	社会福祉法人幌 北学園 下落合 そらいろ保育園	東京都
審査委員特別賞 (エレガントなお 米アイスレシピ)	岐阜県産栗のモンブラン愛す	柘植 わかな さん	名古屋女子大学	岐阜県
審査委員特別賞 (優雅なひと時に ぴったりなレシ ピ)	アールグレイ香るオレンジの贅沢パウンドケーキ	オレンジピース/ 難波 叶美 さん 石塚 琴羽 さん 後藤 あずさ さん 佐々木 理湖 さん 田中 亜由菜 さん 松井 凜佳 さん	名古屋学芸大学 管理栄養学部 管理栄養学科	愛知県
入賞	安心ダックワーズをく わーずにはいられない	小野 範幸 さん	吉見町けやき保 育所	埼玉県
入賞	サクサク！花咲く！笑 顔咲く！ひよこ豆のフ ラワーラングドシャ	栢森 真希 さん		大阪府

入賞	ココナッツで南国感UP！みんなでアロハ～ ふわもちマラサダ	宮前つばさ幼稚園 給 食室／ 土師 夏歌 さん 三杉 真紀子 さん 芦高 智子 さん 平野 裕子 さん 東槇 直子 さん 小田 遥 さん	社会福祉法人 博光福祉会 幼 保連携型 認定 こども園 宮前 つばさ幼稚園	大阪府
入賞	みんなで食べよう！ロ ールケーキタワー！	とり組さんお菓子係／ 服部 彩乃 さん 小倉 千鶴 さん	名古屋学芸大学 管理栄養学部 管理栄養学科	愛知県
入賞	f a l l S a b l e	M o s c o w m u l e／ 小澤 明由莉 さん 皆川 友佳 さん 釜田 優希美 さん	北日本ハイテク ニカルクッキン グカレッジ 調 理科	岩手県

※所属は2024年2月時点

別表4 2023年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期（7件）】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	教育現場における食物アレルギー・エピソード講習会（学校関係者対象）	ひょうご食物アレルギーの会 「オリーブ」	西川 由記
2	「こどもアレルギー教室」（e-ラーニング）の実施	認定特定非営利活動法人ア レルギー支援ネットワーク	坂本 龍雄
3	子どもたちの成長を支える専門職を支援する事業（食物アレルギー対応向上の研修会、研修資料の作成）	特定非営利活動法人アレルギ ーを考える母の会	園部 まり子
4	食物アレルギー患者の自立を促すサインプレート	NPO 法人ピアサポート F. A. cafe	服部 佳苗

5	食物アレルギー情報共有企画	大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」	田野 成美
6	第8回ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会） ー検査～治療の最前線をおとどけしますー	特定非営利活動法人福岡食物アレルギーネットワーク	柴田 瑠美子
7	宮城県全域の学校・保育関係者、消防職員を対象とした食物アレルギー出張研修会	一般社団法人 医療人材の育成を推進する会	荒田 悠太郎

【第二期（2件）】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	災害におけるアレルギー疾患の患者向けパンフレット作成、配布	特定非営利活動法人千葉アレルギーネットワーク	下条 直樹
2	食物アレルギーの啓蒙とアレルギー児が安心して生活するためのサポートツールの作成と普及	いわてアレルギーの会	山内 美枝

※企画活動名の 50 音順、敬称略

別表 5 2023 年度 災害時等における救援活動支援助成課題一覧

【通期（1件）】

	激甚災害名	団体名	代表者名
1	令和 6 年能登半島地震	認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク	坂本 龍雄

※敬称略

別表 6 2023 年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5 月 11 日	第 1 回理事会	・ 2022 年度計算書類・事業報告の承認 ・ 定時評議員会の招集の決定 ・ 審査委員会委員の選任 ・ 2023 年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定 ・ 2023 年度事業進捗状況の報告 ・ 役員（理事）候補について ・ 評議員の退任と評議員候補について ・ その他
2	6 月 1 日	定時評議員会	・ 2022 年度計算書類、事業報告の承認 ・ 役員（理事）の選任 ・ 評議員の選任 ・ 2023 年度事業計画及び収支予算書等の報告
3	9 月 28 日	第 2 回理事会	・ 2023 年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定 ・ 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・ 2023 年度事業進捗状況の報告 ・ その他
4	2 月 1 日	第 3 回理事会 （決議の省略による）	・ 2024 年度公募型研究助成事業における採択課題の決定について
5	2 月 8 日	第 4 回理事会 （決議の省略による）	・ 災害時等における救援活動支援助成の採択先決定の件
6	3 月 7 日	第 5 回理事会	・ 2024 年度事業計画について ・ 2024 年度収支予算について ・ 2024 年度資金調達及び設備投資の見込みについて ・ 第 9 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品の決定について ・ 役員賠償責任保険への加入について ・ 災害時等における救援活動支援助成 助成先の決定 ・ 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・ 審査委員会からの答申内容について ・ その他

付属明細書に記載する事項無し

以上